

第三章 「総合的な学習の時間」―現場の声―

本章では、実際の現場にあたる。ここでは、小学校、中学校、高等学校での、「総合的な学習の時間」への取り組みの様子などについて、各校教諭とのインタビューを行ったものについてまとめる。

第一節 現場の声―小学校―

A 市立 A 小学校（児童数 299 人）の教務主任、A 教諭にお話を伺った¹。内容は以下の通りである。

「総合的な学習の時間」への取り組みは、学校としては（「総合的な学習の時間」の本格実施に向けた移行期間開始の）00 年度からだが、97、98 年度辺りから、試行の試行のような勉強を先生方が自主的に始めていた。素案は先進校（文部科学省指定のモデル校）の実践事例にならい、決定は先生方全員で行っている。時期は 12、1、2 月で、2、3 月に授業の骨組みを決定し、4、5 月で計画の見直しをしながら軌道修正を行い、やってみての反省を次年度以降に活かしている。時間数については、年間で、00 年度は 35 時間、01 年度は 70 時間、02 年度は、3、4 年生が 105 時間、5、6 年生が 110 時間と段階を踏んで増やしてきた。

（「総合的な学習の時間」の）経験がないのだから、とにかくやってみようという思いでいるが、「総合的な学習の時間」（うんぬん）の前に、ベースとなる力、読み書きなどの基礎学力が子どもたちにないと「総合的な学習の時間」の授業もできないと感じている。苦労している点など、現在抱えている問題や課題については、子供たちが（取り組むべき）問題、課題を見つけるとするのが「総合的な学習の時間」ではないかと考える中で、なかなかこれを見つけられない子供がいることである。教師の願いとしては、（「総合的な学習の時間」を通して）人や社会との関わり、ふれあいを、また、自分に自信を持たせたいという思いがある。「総合的な学習の時間」への行政側の支援については、「総合的な学習の時間」を含め、市から補助金がいただけるのがありがたい。

第二節 現場の声―中学校―

B 町立 B 中学校（生徒数 577 人）B 教諭にお話を伺った²。内容は以下の通りである。

「総合的な学習の時間」への取り組みは 00 年度からで、それ以前（移行期間の前）は（「総合的な学習の時間」の）時間が確保されていないため取り組んでいない。この（00 年度からの）2 年間の試行段階においては、学年ごとに設定したテーマに基づき、オーソドックスな「総合的な学習の時間」を行っていた。現在は、年間 70 時間、週換算で週平均 2 時間

行っている。

B 中学校では、コミュニケーション力、表現力を前面に押し出した活動ということで、探求重視コース（課題解決型） 表現重視コース（演劇、和太鼓、民舞） 体験重視コース（ものづくり（木工所で） 栽培・生産活動（地域の農家の方の協力））の 3 つのコースを設け、 と の活動が、学校として特徴ある活動となっている。文化祭では、 のコースが発表を、 のコースが栽培した作物の販売を行い、その利益を老人ホームに寄付している。また、この中学校のもうひとつの特徴として、文化祭までの 50 時間は、1～3 年まで学年の垣根を越えて ～ の活動を行うことが挙げられる。残りの 20 時間は各学年に戻り、それまでの 50 時間の活動を振り返り進路について考えるなど、自己を見つめることを目的とした内容となる。 と の活動については、職員の人的つながり、または町に登録をしている方の中からお願いして、外部指導者として地域の方々の協力を得ている。彼らへの謝礼は町が一律に負担している。取り組み方は学校によっていろいろだが、B 中学校では校長がイニシアティブをとっている。一般論として、教科担任制の中学校においては、教師間の結束力が小学校におけるそれと比べ弱いところがあったが、「総合的な学習の時間」ができたことで、学校としてこれに取り組んでいかなければならないため、みんなでやっていこうという意識は高まるだろう。

現在抱えている問題、課題は、『質』がどうかという問題、学校全体としてグループとして上手くいっていても、それが生徒ひとりひとりにどれだけ深まっているか（質の深まり）という点である。（「総合的な学習の時間」が始動したばかりの）今は過渡期でいろいろな考え方があるが、とにかく実践してみないことにはという思いでいる。成果が見えるなど、上手く回転していけば（「総合的な学習の時間」は）ダイナミックなものとなり得るが（なかなか難しい）（「総合的な学習の時間」は）学校や子どもたちを取り巻く環境、実態を踏まえたものでなければならず、今後は、小学校との連携についても課題となってくるだろう。行政側の支援（体制）に対しては、外部講師を招いたときなどの謝礼の補助金が挙げられる。

地域に向けての発信などについては、居合わせた C 町立 C 小学校教諭にお話をいただき、C 小学校では自治会と保護者へ向け回覧版をまわして、「総合的な学習の時間」におけるボランティアを募っている、とのことであった。

第三節 現場の声—高等学校—

「総合的な学習の時間」は、高等学校においては来年度より学年進行で本格的に実施される。松本教授より、「総合学科」³を設ける高等学校は進路指導に熱心であるなど、「総合的な学習の時間」導入へ向け意欲的であるのではというアドバイスを受け、94 年度、全国に総合学科が 7 校設置されたうちのひとつである、県立 D 高等学校（生徒数 875 人）へ

足を運んだ。

（１）教務主任のＤ教諭とのインタビュー

県立Ｄ高等学校の教務主任、Ｄ教諭にお話を伺った^４。内容は以下の通りである。

総合学科開設の経緯は高校再編の流れ^５で、県内の高等学校の普通科と専門学科との比率見直しという県の方針で、家政科の募集停止が決定され、94年に総合学科が開設された。総合学科の特徴は、普通科や家政科^６と違い、選択授業が多いこと、1年生時での原則履修科目「産業社会と人間」^７の授業において進路について考える学習を行うことである。しかし、世間一般では、総合学科に対して専門学科と同じというイメージが強い。幅広い選択科目が設けられる中、これに教師側がどう対応しているかとの問いについては、専門外の分野に対するフォローとして、研修に出かけたり専門学校に行って学ぶ先生もいたりするなど、普通科の先生に比べ総合学科の先生の負担は大きいだろう。総合学科のメリットは、大学や専門学校に進学する生徒もいれば、就職する生徒も、総合学科に魅力を感じ遠くから来る生徒もいる（駅の近く、という立地条件の良さもある）など、いろいろな生徒がいる点である。クラス単位の授業は学年が進むにつれ減り、各自が進路に基づいた授業をばらばらに受けるようになるので、友達がたくさんできるなど、つながりが広くできる点、生徒の興味・関心にあわせた科目をたくさん備えてある点もそうである。デメリットについては、いろいろな教科のつまみ食いともとれる点である。

総合学科で教える現場の先生方は、総合学科に行くのは大変というイメージを持っている。異なった科目をいくつも担当するため、普通科で教えるより大変だろう。また、職員数については、国で、総合学科の加配が（クラス数÷2）+1と定められているため、普通科に比べ正規の先生で10数名、非常勤の先生も多い。

現在抱えている問題や今後の課題については、進路指導について、1年生時での「産業社会と人間」において授業の中で進路設計を学ぶが、（何年か先まで見据えた上での）生徒の進路実現をどう目指していくかに尽きるが、教師生徒間は、選択する授業が多く（それぞれの進路に基づいた）科目選択とも関わってくるため、これにかなり時間を割かなくてはならないこともあって密である。地域との関わりについては、95年度より中国語のできる先生による中国語講座を設け、一般の人を受け入れている。また、町の社会福祉協議会と連携し、町の福祉施設を訪問しての実習を行ったり、毎年12月半ばに芸術系列^８の発表会（作品展示、演奏）を、町の公民館で一般の人にも公開したりしている。

（２）生徒へのアンケート調査

実際に、同校の総合学科で学ぶ生徒の声を聞くべく、3年生のあるクラス（38名）に筆者作成のアンケートに答えてもらった^９。集計結果の詳細については、資料3-3-2を参照。

アンケートの質問項目は以下の4つで、はじめの質問のみ選択肢を設け、複数回答可で答えてもらった。

Q あなたがD高等学校総合学科へ進学を決めた理由を教えてください。

以下の選択肢から近いものを選んでください。

- a 進学、就職に有利と考えたから。
- b 授業などカリキュラムに魅力を感じたから。
- c 自宅から近距離であるなど、通いやすかったから。
- d 当初志望していた高校に進学できなかったから。
- e なんとなく。
- f その他

Q 総合学科で学んでいて良かった、と思う点がありますか。それはどのような点ですか。

Q 総合学科で学んでいて困った、まずかった、と思う点がありますか。それはどのような点ですか。

Q あなたの将来の夢を教えてください。¹⁰

1つ目の質問では、「b 授業などカリキュラムに魅力を感じたから」が25と一番多く、順に「c 自宅から近距離であるなど、通いやすかったから」が7、「a 進学、就職に有利と考えたから」が5、「d 当初志望していた高校に進学できなかったから」が2、「e なんとなく」が1、「f その他」では「自分の学力に合っていると思ったから。学力的に。」という回答があった。

2つめの質問では、「自分のカリキュラムを作れる」「課題研究¹¹などの独特の教科がある」「学習や興味の視野が広がり、自分が本当に好きなこと、やりたいことは何か、というのがわかった」「自主性が尊重されている」「将来についてよく考えることができた」「進路や受験科目に合わせてカリキュラムを組めるので、受験にかなり有利になった」「自分の進路や夢に近づけた」「将来の夢に関心を持つことができた」「幅広い選択科目がある」「(みんな、進みたい先ややりたいことが違っていて)いろいろな考え方があり、刺激しあえている」などという意見のある中、「特にはない」という意見もあった。

3つ目の質問では、「感じたことはない、特になし」という意見もある中、「進路がはっきりと決まっていないと、科目選択で後悔する」「科目ミスをすると、後で変更できない」「先生方が一方通行に選択の余地なしといった感じでカリキュラムを選んでしまうので、あまり普通科とかわらない」「専門的に学ぼうとしても、4年制大学に進学する場合、普通科と変わらない授業選択になってしまう」という意見もあった。4つ目の質問の回答については、資料のほうを参考にしてもらい、ここでは割愛する。

¹ 02 年 10 月 23 日、A 市立 A 小学校にて教務主任の A 教諭とのインタビュー、並びに 4 年生の「総合的な学習の時間」の授業見学。

² 02 年 11 月 2 日、宇都宮大学教育学部大学院教育学研究科カリキュラム開発学院生研究室にて B 町立 B 小学校 B 教諭、並びに C 町立 C 小学校 C 教諭とのインタビュー。

³ 「総合学科」とは、従来の普通科や専門学科と並ぶ第三の学科として、94 年度に全国で 7 校設置からスタートした。単位制で多種多様な科目の中から、自分の進路希望や興味・関心に合わせて、主体的に科目を選択することができるという大きな特徴をもつ。少人数によるきめ細かな授業や、外部講師による専門的な授業も行われる（同校ホームページより要約）。

<http://www.ujiie-h.ed.jp/ujiko1.html>

⁴ 02 年 10 月 31 日、県立 D 高等学校にて教務主任の D 教諭とのインタビュー、並びに 3 年生の「課題研究」の授業見学。

⁵ 「91 年 4 月の中教審答申は、高等学校教育の改革について、生徒の個性の伸長や学習の選択の幅を拡大する上で種々の改善方を提言し、その後この答申の趣旨に沿った高等学校教育の改革が進められている。その狙いは、(1) 高等学校教育の量的拡大から質的充実へ、(2) 形式的平等から実質的平等へ、(3) 偏差値偏重から個性尊重・人間性重視へ、の 3 つの基本的な改革の視点のもとに、学科制度の再編成、新しいタイプの高校の奨励、単位制の活用による選択幅の広い教育課程の編成などを実現することであった。（野原明『戦後教育五十年』）pp.52-53。

⁶ 総合学科を開設する以前、同校は普通科と家政科というふたつの学科を備えた高等学校であった。

⁷ 「産業社会と人間」とは、総合学科における 1 年次生を対象とした原則履修科目で、産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資することなどをねらいとした進路学習科目である（同校ホームページ、並びに文部科学省ホームページ「総合学科の今後の在り方について～個性と創造の時代に応える総合学科の充実方策～（報告）より要約」）。

<http://www.ujiie-h.ed.jp/sansya.html>

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/009/toushin/000101a.htm

⁸ 「系列」とは、進路に応じた学習ができるように、ある程度の方向性と系統性を持たせた科目のまとまりのことで、同校では、人文語学、自然科学、芸術、体育健康、生活文化、情報の 6 つの系列を設けている（同校ホームページより）。

<http://www.ujiie-h.ed.jp/ujiko1.html>

⁹ 02 年 10 月 31 日の同校訪問の際、教務主任 D 教諭にアンケート用紙を託し、11 月 6 日回収を行った。

¹⁰ この質問を設けたのは、進路意識が高いとされる総合学科に学ぶ生徒が、どれほど自分の将来について具体的なイメージを抱けているのだろうかという疑問を、夢を述べてもらうという形にて探れないだろうか、と考えたためである。

¹¹ 「課題研究」とは総合学科における 3 年次生を対象とした原則履修科目で、今年度入学の 1 年生までで廃止される（同校ホームページより要約）。新課程となる来年度から本格的に実施される「総合的な学習の時間」の先行事例ともなる。

<http://www.ujiie-h.ed.jp/sansya.html>